

2004
夏号

Gastronomy Review

ガストロノミーレビュー



定価525円(税込)

旬のありがたさ、 四季あるしあわせ



■特集 女性のためのアルコールライフ

永遠に美しく。日本酒で「酔美人」

■連載 山本祥二郎の酒情報

ヤシ酒の国フィリピンを往く他

焼酎海道を進め!

本格焼酎の魅力 特別編

国道58号焼酎海道の旅レポート前編

ある洋酒造りの

ひとこま 関根彰先生出版記念

この人に聞く!

子ども環境文化研究所理事長 小山泰生氏

クローズアップ

Dr. 愛媛アナウンサー 上見貞紀子さん(調酒師)

■好評シリーズ

旬のハワーを食べる 茄子

世界の飲食事情

ヨーロッパ編 野菜の貴族、ホワイトアスパラガス

中国編 紹興訪問記





連載

子ども環境文化研究所理事長 小山泰生氏

友田 晶子=文
Associate Terada
SSI理事、FBO東京支部役員
副理事、ワインコーディネーター
ワインインストラクター

「車」と「お車」の違い、わかりますか？

「へりくだりすぎない簡素な敬語」をうつくしく使っていますか？

相手を包み込む「クッション言葉」を知ると、あなたも気品あるサービスマンになれるのです。

国際語訳通家を父に、社会学者を祖父にもたれる国際プロトコルの一人者小山さんですが、現在のお仕事を教えてください。

乳幼児向けの家庭教師派遣事業をしております。ベビーシッターとは違い、まして、ある程度社会的責任のあるお母様の場合、お子さまも受験をクリアしなければいけない。ある意味の英才教育ですね。わたくしは、それぞれの「学校文化」と「知育能力」が重要と考へておりまして、とくにこの「学校文化」、これは「漢字とか」「生活習慣」と「思いやり」がありますが、こういう勉強は大きな意味では無理なものです。なにより、生まれたときからの生活が大切。これをしっかりやれば「詰め込み」しなくても受かる。うわべだけではダメということなんです。子供をいい学校に入れるノウハウを思い浮かべたとき、全員のビジネスモデルを考へて出したわけです。現在法人化して3年です。

なるほど。では具体的にどんな内容なのでしょう？

はい、親の教育もしていくということ、家庭内にも入ります。週2回、もしくは週3回、4時間程度のお勉強をします。そのなかにはお絵かきや体操などもあるんです。もちろん、わたくしはコンピニーターを信用していません。ところがどうもして(笑)、今日の授業は人間の管理が行き届く範囲の30、40軒くらいをうねにこ担当いたします。行き届いたお店もそうだとお思いですが、人間の頭以上に優れたものはないですからね(笑)。

生まれたときから小学校までのお勉強が対象です。子供の頃は1歳から2歳までに知能をきたえるピークがきます。それ以上は変わらない。だからこの時期がとくに大切です。それ以後は、学校での文化に演出していくというところになるんです。

御三家といわれる青山、慶應、学習院。女の子は慶應系、男は青山など、それぞれの経験者が

家庭教師としての勉強をしたのち、実際に講師として派遣されます。現在60名ほどが登録しております。

レベルの高い学校はベーパー試験が少ないのです。良い学校はベーパー以外の試験が多い。エニークと(個性)も採点になりますからね。そういうことも重要視しております。

小山さんご自信がお考えになるプロトコルとは？

要約的にいってもプロトコルとは「条約」ということ。世界で最初にできた国際条約は「ウィーン条約」ですが、この時まず重要事項だったのが「手次」についてです。大使の着任期間の長さによって席間が決まり、ある意味平等になったわけですね。

つまり「相手を大事にしている」といかに「表すか」がプロトコルの考えです。決まりを守るのではなく、いかに気遣いが出来るかが大切。もちろんある程度決まりことはあります。



ですが、それを守るだけでよいければかえって楽なんです。

また「思いやり」である「一」(挨拶)があることも重要として、みんなの顔がよければ環境変化に対応していいのです。また、差障りのお勉強だけはしておかなければいけません。

「環境文化」というキーワードは小山さんご自身がお作りになった「環境文化」が由来ですか？

